



駒澤大学

第3回 学生シンポジウム

ご挨拶

昨年の成功を経て、今年も学生シンポジウムを開催できたことをうれしく思います。今回の学生シンポジウムも昨年と同様に経済学部のみならず他学部のゼミさんにも参加していただけたこともあり、多様なテーマについて討論が行われるのではないのでしょうか。

この学生シンポジウムでは、参加ゼミが自由なテーマを持ち寄って研究成果を発表する場となっており、当日参加してくださる方々も発表内容について議論することができる聴衆参加型の研究発表会となっています。

また、学生シンポジウムは企画・運営共にすべて学生が行っております。そのため参加者の方々にはご不便をおかけすることもあるかとは思いますが、運営全員、全力で務めさせていただきますので、何卒よろしくお願い致します。

当日分からないことなどございましたら運営スタッフに気軽にお申し付けください。

駒澤大学「学生シンポジウム」担当：経済学部 3年 長谷川拓登

趣旨

私たちが「学生シンポジウム」を開催する趣旨は大きく分けて2つです。

第1に学生として自分たちの研究を深めつつ、様々な学問分野に対する教養を身に付けることです。近年の複雑化している社会にあって、私たち学生は他の学問に目を向けずに、自分たちが学んでいる専門分野だけに目を向けていけばよいのでしょうか。

「学生シンポジウム」を通して、他学部の学問研究や視点に刺激を受けると同時に自らの見聞を広げることで、各々の学部で取り組んでいる学生個々の知識や教養はより洗練されていくのではないかと考えます。

第2に駒澤大学を学問という観点から盛り上げていくためです。単なる行事ごとのような一過性ものではありません。学問の追求を行う大学という機関が求めることを具現化したようなこの試みが、今後5年、10年と続いていけば1歩ずつでも大学生の学問への取り組みは改善に繋がるでしょう。何よりも学生が主体となり、大学側と連携をとって学校を盛り上げていくこの姿こそ、世間が大学、そして学生に求める「在るべき姿」だと私たちは考えました。

上記の理由から私たちは今年度も全学部規模の「学生シンポジウム」を開催致します。

Program

【日程】 2017年11月19日（日）

【時間】 11：00～ 開場及び受付開始時間

12：30～ 開会式

13：00～ 発表開始時間

【場所】 開会式: (9号館 -391)

発表場所: (9号館 - 170,173,177,179,280,283,287,289)

【受付場所】 (時間によって異なります)

9号館 -392 教場 (11：00 から 12：30)

9号館 1階 (12時30分から17時20分)

各分科会のテーマ

「地域活性化」「格差」「労働問題」「企業と労働者」「日本の政策・政治・税金問題」

「グローバル・ガバナンス」「食のあり方と資源活用」「消費者行動」

◇ 参加団体

経済学部(明石ゼミ、浅田ゼミ、姉齒ゼミ、江口ゼミ、斎藤ゼミ、田中ゼミ、長山ゼミ、西村ゼミ、百田ゼミ、深見ゼミ、福島ゼミ、堀内ゼミ、宮田ゼミ)、
法学部(富崎ゼミ)、経営学部(青木ゼミ、鹿嶋ゼミ、菅野ゼミ、中野ゼミ)

◇ タイムスケジュール

時間	内容	場所
12：30	開会式	(9号館-391)
13：00～13：35	1 チーム目：発表・質疑応答	9号館 170,173,177,179 280,283,287,289
13：45～14：20	2 チーム目〃	
14：30～15：05	3 チーム目〃	
15：15～15：50	4 チーム目〃	
16：00～16：35	5 チーム目〃	
16：45～17：20	6 チーム目〃	
17：40～18：40	懇親会	学生食堂 1階
18：40～19：00	閉会式	

※発表時間は20分、質疑応答は15分、計35分となります。

※質疑応答終了毎に10分間の休憩をはさみます。

◇ 会場説明



◇ 9号館内会場配置

9号館2階	9-287 「食のあり方と資源活用」	9-286 「運営控室C」	階段	WC	9-280 「日本の政策・政治・税金問題」	9-281	9-282
	廊下						
9号館1階	9-289 「消費者行動」	9-288 「運営控室D」		EV	9-283 「グローバル・ガバナンス」	9-284	9-285
	9-177 「労働問題」	9-176 「運営控室A」	階段	WC	9-170 「地域活性化」	9-171	9-172
	廊下						
	9-179 「企業と労働者」	9-178 「運営控室B」	入口 受付	EV	9-173 「格差」	9-174	9-175

分科会テーマ目次

「地域活性化」	5
「格差」	7
「労働問題」	9
「企業と労働者」	11
「日本の政策・政治・税金問題」	13
「グローバル・ガバナンス」	15
「食のあり方と資源活用」	17
「消費者行動」	19

「地域活性化」

教場：9-170

時間	内容
13:00～13:35	経営学部 菅野ゼミ 不安解消班
13:45～14:20	経済学部 姉齒ゼミ 地域班
14:30～15:05	経済学部 明石ゼミ 路面電車班
15:15～15:50	経営学部 菅野ゼミ CM班
16:00～16:35	経済学部 長山ゼミ 地域エコシステムグループ

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

ゼミ名	チーム名
菅野ゼミ	不安解消班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは「僕は君たちに武器を送りたい」という本を読んで、その中に出てくる“不安解消マーケティング”という言葉に興味を持ちました。消費者の心理的不安を利用して、お金の回る仕組みを作るとは、いかなるものか…。そこで消費者の不安要因を読み解いて、不安が消費者に与える影響について、考えて行こうと思います。</p>	

ゼミ名	チーム名
姉齒ゼミ	地域班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは今各自治体が進める外部の力を利用した地域活性化の有効性と限界に注目しました。昨年度から調査を継続している佐渡の実例と夏に行う合宿を通して見えた、地域住民と移住者との交流の課題や大学生と集落との関わり方の難しさ、本当の地域活性化の在り方について発表したいと考えています。</p>	

ゼミ名	チーム名
明石ゼミ	路面電車班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>東京一極集中の問題により地方創生が叫ばれる中その手段としての LRT（ライトレールトランジット）を採用し、街づくりを通じた地方活性化を日本と海外の比較や具体的な事例を挙げながら考察します。</p>	

ゼミ名	チーム名
菅野ゼミ	CM 班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは CM について注目しました。現在、au、Softbank など消費者の記憶に残るような影響力のある CM があります。しかし一方で私たち消費者に影響を与えない CM もあります。ではその違いは何なのか、さらに自分たちが CM を作るとしたらどうするのかを研究し取り組みます。</p>	

ゼミ名	チーム名
長山ゼミ	地域エコシステムグループ
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>今年度私たち長山ゼミは鎌倉の地域活性化コミュニティー「カマコン」メンバーの皆様の御協力のもと、夏休みのゼミ合宿において鎌倉地域における地域イノベーション・エコシステムについて現地調査とヒアリングを行いました。</p> <p>調査で得た知見を基に私達が考える鎌倉の地域エコシステム理論について発表したいと考えています。</p>	

「格差」

教場：9-173

時間	内容
13：00～13：35	経済学部 江口ゼミ 雇用班
13：45～14：20	経済学部 宮田ゼミ 子供の貧困・格差班
14：30～15：05	経済学部 齊藤ゼミ 格差・貧困班
15：15～15：50	経済学部 姉齒ゼミ 世代間格差班
16：00～16：35	経済学部 福島ゼミ アフリカの食糧問題班
16：45～17：20	経済学部 宮田ゼミ トランプの移民・雇用政策への批判

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

ゼミ名	チーム名
江口ゼミ	雇用班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>なぜ人手不足なのに賃金が上がらずデフレのままなのか？というテーマで勉強しています。</p> <p>市場のメカニズムが上手く機能していない現在の日本、その現状と考えられる原因を調べ、どのような解決策があるのかを調べ研究しています。</p>	

ゼミ名	チーム名
宮田ゼミ	子供の貧困・格差班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは子供の貧困格差をテーマとして取りあげます。貧困世帯の親の子供は、学力や健康など圧倒的な不利な状況下におかれており、その格差は大人になっても受け継がれます。貧困大国である日本の貧困の原因や、世代間連鎖を絶つために必要な解決策とは何かを考えます。</p>	

ゼミ名	チーム名
齊藤ゼミ	格差・貧困班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは現在日本で大きな問題となっている、所得格差とそれに伴う教育格差に注目しました。日本は近年非正規雇用が増えてきており十分に所得を得られている人が少なくなってきた。また、教育はこれに比例して所得が多い人の家庭ほどいい大学に進学しているという問題の自分たちなりの解決策を出したうえで説明していきたいと考えています。</p>	

ゼミ名	チーム名
姉齒ゼミ	世代間格差班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>高齢者福祉の削減を進める理由として、少子高齢化が社会システムに大きな歪みを生じさせている為、そのツケを次世代に残さない為とされている。それは本当だろうか？世代間格差の問題を考えることは私たち自身の将来について考えることでもある。したがって、この問題を考えるための出発点として、まず少子高齢化が問題なのかどうかを含めて、「常識」にも疑問を投げかけながら検証を進めていきたい。</p>	

ゼミ名	チーム名
福島ゼミ	アフリカの食糧問題班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは発展途上国の貧困問題について注目しました。その中でもアフリカのナイル川周辺の食糧問題から貧困問題にアクセスしていきました。この地域を選んだ理由としては、様々な国が複雑に関わり合うことで紛争・宗教問題、そして絶対的に必要である食糧問題が深刻に発生していると考えたからです。食糧問題の現状、食糧貿易、解決策について紹介します。</p>	

ゼミ名	チーム名
宮田ゼミ	トランプの移民・雇用政策への批判
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>現在アメリカには 1000 万人を超える不法移民がいる。オバマ政権はそのうち 500 万人以上の不法移民に合法的地位を与える行政命令を出した。しかし現在、「移民が雇用を奪っている」といったトランプ政権による論調が強まり、移民政策および雇用政策は大きな転換期を迎えている。そこで私たちの班では、トランプによるこれら政策を批判的に検証し、アメリカの現在と展望について考える。</p>	

「労働問題」

教場：9-177

時間	内容
13:00～13:35	経営学部 鹿嶋ゼミ D班
13:45～14:20	経済学部 明石ゼミ ブラックバイト班
14:30～15:05	経済学部 堀内ゼミ ブラックバイト
15:15～15:50	経営学部 鹿嶋ゼミ C班
16:00～16:35	経済学部 宮田ゼミ ブラック企業班
16:45～17:20	経済学部 齊藤ゼミ 社会・労働班

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

ゼミ名	チーム名
鹿嶋ゼミ	D班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは、企業が障害者を雇用するために行っている、特例子会社について研究します。はじめに、障害者の雇用の現状を調べ、次に企業が障害者雇用に向けて取り組んでいる特例子会社について詳しく調べていきます。最後に、今後特例子会社が社会に浸透していくかを考察していきます。</p>	

ゼミ名	チーム名
明石ゼミ	ブラックバイト班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>日本のブラックバイトと学生の部活動を比較し、なぜ日本経済が先進国の中でも効率の悪い働き方をしているのかという原因を考えました。</p>	

ゼミ名	チーム名
堀内ゼミ	ブラックバイト
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちの班は今、社会問題になっているブラックバイトに注目しました。そのブラックバイトとは何なのか、特徴や実態を明らかにします。この社会問題であるブラックバイトに学生がどう向き合っていくべきなのか、その対策も述べていきます。</p>	

ゼミ名	チーム名
鹿嶋ゼミ	C班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちの班は、ネット通信販売の拡大による日本の宅配便業界への負担と、これからの業界の動向について注目しました。今、ネット通信販売は多くの方が利用しており今後もその利用率は上がっていくとみられています。それに反して、宅配便業界は最近取り上げられているように、サービス残業やドライバー不足、割に合わない給料など様々な問題があります。そこで宅配業界の現状、動向にも触れながら、実際に行われている各企業の対策も比較して紹介していきたいと思います。</p>	

ゼミ名	チーム名
宮田ゼミ	ブラック企業班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは、ブラック企業が増加する原因やその実態について調べます。はじめに、ブラック企業の例示を取りあげながらその実態を示したうえで、そもそも「ブラック企業」は何故生じたのか、という根本的な点について分析を行います。そのうえで、我が国の過酷な労働のあり方を転換するためになにが必要なのか、その解決に向けた考察を行います。</p>	

ゼミ名	チーム名
齊藤ゼミ	社会・労働班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは労働環境の変化について注目しました。グローバル化が叫ばれて久しい現代、労働環境は目まぐるしく変化し続けている。AIの導入に代表されるような新しいカタチの「働き方」を模索し、グローバル社会における日本の労働環境がどのように変化しているか、そして今後どのような労働環境が築かれていくのかを、実例と合わせて紹介します。</p>	

「企業と労働者」

教場：9-179

時間	内容
13：00～13：35	経済学部 明石ゼミ A班
13：45～14：20	経済学部 堀内ゼミ D班
14：30～15：05	経営学部 鹿嶋ゼミ A班
15：15～15：50	経営学部 中野ゼミ C班
16：00～16：35	経済学部 百田ゼミ 企業・労働者班
16：45～17：20	経営学部 鹿嶋ゼミ B班

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

ゼミ名	チーム名
明石ゼミ	A班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは近年増加する労働問題について、労働体制や労働時間の推移を日本国内だけでなく海外にも広げて検証しました。そこから日本特有の労働事情や、海外の労働問題も一部交え、パワーハラスメントや過労自殺といった問題は本当に日本だけのものなのか、また、日本だけであるとしたら問題を生み出す要因は何であるのかを発表します。</p>	

ゼミ名	チーム名
堀内ゼミ	D班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>今日本を取り巻いている労働環境は非常に厳しいものとなっています。今までの日本は終身雇用、年功序列賃金、新規一括採用という特性を持っていたのですが、雇用流動化を推し進める動きによってこれは崩れ始めています。非正規社員の増加、人材ビジネスの強化、雇用流動化…日本の向かう先を考えていきます。</p>	

ゼミ名	チーム名
鹿嶋ゼミ	A 班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>2020 年の東京オリンピックの開幕日となる 7 月 24 日が「テレワーク」の日に設定された。そこで私たちは、在宅勤務について注目しました。在宅勤務を導入することで、会社に起きた問題や変化、またワークライフバランスはどれだけ充実させることが出来るのかということについて研究していきます。</p>	

ゼミ名	チーム名
中野ゼミ	C 班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは企業が従業員に対して行うマーケティングである「インターナルマーケティング」に着目しました。従業員のニーズに応じた仕事の提供を目指すこと、またそれに伴う組織の成果向上を目的としています。私たちの班では主に、どうすれば従業員のモチベーションが上がり、企業の利益につながるかを研究しています。</p>	

ゼミ名	チーム名
百田ゼミ	企業・労働者班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちのゼミでは、企業経営学の基礎について学んでいました。日本や世界の企業がどのような考え方を持って会社を運営しているのかを体系的に学んできました。現在のゼミ活動では、学んできた中で生じた問題や疑問に対して、班を作り研究・発表を行っています。</p>	

ゼミ名	チーム名
鹿嶋ゼミ	B 班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>近年、電通での過労死問題が話題を呼んだ。私たちは、この問題は広告代理店における何か特別な働き方の存在に起因しているのではないかと疑問を持った。そこで、広告代理店における過労死問題について、大手の広告代理店に絞り研究をしていく。具体的には、広告代理店の中にある部門(大きく分けて営業・媒体・制作の 3 部門)についてそれぞれ研究し、そこから見えてくる現状・課題・対策を順を追って考えていく</p>	

「日本の政策・政治・税金問題」

教場：9-280

時間	内容
13：00～13：35	経済学部 堀内ゼミ 消費税班
13：45～14：20	法学部 富崎ゼミ 都議選班
14：30～15：05	経済学部 江口ゼミ 金融政策班
15：15～15：50	経済学部 深見ゼミ 投資信託
16：00～16：35	経済学部 江口ゼミ 消費税班

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

ゼミ名	チーム名
堀内ゼミ	消費税班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは、消費税について注目しました。今の日本の財政はどのような仕組みになっているのか、消費税が5～8%に上がった理由、そして8%になって何が変化したのか、また10%に上がることについて紹介します。</p>	

ゼミ名	チーム名
富崎ゼミ	都議選班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは、2017年7月2日に行われた都議選について注目しました。なぜ、小池百合子氏が率いる都民ファーストが大差で圧勝したのか、自民党が大敗したのかを、投票者層の動きや、過去の都議選の投票結果など様々な観点から分析し、紹介します。</p>	

ゼミ名	チーム名
江口ゼミ	金融政策班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>日本銀行が国債を買ったらどうなるかというテーマで勉強しています。現在、国が行っている量的緩和政策が実際に国民に実感できているほどの効果があったのか、実感できていないなら代替案はどうすればいいのか、そこで政府が日銀に国債を買わせることで何かしらの効果があるのかを研究しています。</p>	

ゼミ名	チーム名
深見ゼミ	投資信託
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>現在の日本において投資信託は家計の資産形成手段として選択されていない。そこで、投資信託の歴史・規制や、市場の歩みから系列関係から生まれた手数料や商品性など現在の問題を明らかにする。そして、家計の資産形成手段として選択されるような相応しい投資信託の在り方について考察する。</p>	

ゼミ名	チーム名
江口ゼミ	消費税班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>消費税の増税は景気を悪くするのかというテーマで取り組んでいます。すぐそこまで迫ってきている消費税の増税10%が景気にどのような影響を与えるのか、そもそも消費税の増税にはどのような経済的な効果があるのかを勉強しています。</p>	

「グローバル・ガバナンス」

教場：9-283

時間	内容
13:00～13:35	経済学部 福島ゼミ 紛争班
13:45～14:20	経済学部 深見ゼミ 証券市場の活性化
14:30～15:05	経済学部 宮田ゼミ イギリスの EU 離脱について
15:15～15:50	経済学部 福島ゼミ 先進国の貧困
16:00～16:35	経済学部 田中ゼミ ヨーロッパ統合班

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

ゼミ名	チーム名
福島ゼミ	紛争班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちはアフリカの紛争問題について注目しました。アフリカでは子供が武器を持たされていたり、数多くの紛争が現在も続いたりしています。なぜ紛争が起こるのか、子供たちの持っている武器がどこから輸入されているのか、他地域との関わりから紛争について紹介します。</p>	

ゼミ名	チーム名
深見ゼミ	証券市場の活性化
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>証券市場には発行と流通の2つの市場が存在するが、その両軸がバランスよく機能しなければ、活性化することが出来ない。このような点から我々は、個人投資家の参入が市場の活性化につながると考えているが、実際のところ個人投資家の増加にはつながっていないため、証券市場の歩み・株価形成の歪さ・株主の権利などの原因を明らかにすることで、個人投資家の参入を促すような提案を考えていく。</p>	

ゼミ名	チーム名
宮田ゼミ	イギリスの EU 離脱について
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちはイギリスの EU 離脱に着目しました。昨年、国民投票によってイギリスの「EU 離脱」が可決されました。イギリスはなぜ離脱という選択に至ったのか、離脱は今後のイギリスと EU との関係や、EU の分裂にどのような影響をおよぼすのかについて、本報告では考察します。</p>	

ゼミ名	チーム名
福島ゼミ	先進国の貧困
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは貧困・格差問題について取り組んでいます。今回は先進国の主に日本とアメリカの貧困問題について発表したいと思っています。先進国では、発展途上国とは全く違う貧困・格差問題というのが山積みとなっています。できるだけ皆様に興味関心を持っていただけるような発表を心掛けて頑張りたいと思います。</p>	

ゼミ名	チーム名
田中ゼミ	ヨーロッパ統合班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは EU やユーロといったヨーロッパに関することを学んできました。ヨーロッパにおけるそれらさまざまな統合を図る政策は、イギリスの EU 離脱問題やユーロ危機などにおいてその理想と現実の乖離が露呈し、将来が不透明化しています。そこで今回、それらの統合に関する問題点を改めて確認し、その克服のための方法を考え、みなさんと議論できればと思います。</p>	

「食のあり方と資源活用」

教場：9-287

時間	内容
13：00～13：35	経営学部 中野ゼミ B 班
13：45～14：20	経済学部 福島ゼミ 8 班
14：30～15：05	経済学部 西村ゼミ マッチング班
15：15～15：50	経済学部 浅田ゼミ 食の歴史
16：00～16：35	経済学部 福島ゼミ 水問題

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

ゼミ名	チーム名
中野ゼミ	B 班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは、広告を掲示する際、消費者に購買意欲を促すことができる「広告掲示の最適空間」について着目しました。広告を邪魔だと思ふ感情を緩和させ、「空間」を利用したマーケティングを行うことで、広告の効果を増大させることができるのではないか、という疑問を検証しています。</p>	

ゼミ名	チーム名
福島ゼミ	福島ゼミ 8 班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>人間は生活の維持・向上のために自然界の一部に働きかけ、資源として利用しています。今後、世界的な人口増加や新興国の消費拡大によって更なる資源需要の増加が予測され、現在のまま消費の圧力が大きくなり続ければ、2030 年には地球 2 つ分の資源が必要になる可能性も指摘されています。これまでのように資源の奪い合いを繰り返すのではなく、誰もが置き去りにされることのない地球社会を目指すべきではないでしょうか。そのためには地球に住む一人として物事をグローバルという幅広い視野で考えながらも、自身にできる範囲で行動していくというひとつひとつの小さな視点が大切だと考えます。</p>	

ゼミ名	チーム名
西村ゼミ	マッチング班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは社会におけるマッチング、つまり、人と人、人と組織などの組み合わせについて着目しました。このマッチングという言葉は、就職活動などでも耳にしたいと思います。果たして、私たちにとって最適なマッチングは実現しているといえるのか？全員にとって、より望ましい組み合わせはないのか？望ましいマッチング制度とは何か？そういった疑問を、駒澤大学でのゼミ選抜制度を題材として、研究しました。</p>	

ゼミ名	チーム名
浅田ゼミ	食の歴史
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちのグループは、近現代イタリアの食文化の変化について調べてきました。18～19世紀のわずか100年の間にイタリアの食文化は大変革を起こします。シンポジウムではイタリアを中心に近現代世界経済と食文化の関係について考えます。</p>	

ゼミ名	チーム名
福島ゼミ	水問題
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>水が誰のものなのか？というテーマを設定し研究をしています。世界各国で起こっている水利権の問題と、水の「公水論」・「私有論」とを絡めながら研究を進めています。これから水は世界中で貴重な「資源」になることが予想されるので、今後どのように「水」と付き合っていくのかを考えています。</p>	

「消費者行動」

教場：9-289

時間	内容
13:00～13:35	経営学部 菅野ゼミ 衝動買いチーム
13:45～14:20	経営学部 青木ゼミ マーケティング班
14:30～15:05	経済学部 福島ゼミ もったいない班
15:15～15:50	経営学部 中野ゼミ A班
16:00～16:35	経営学部 菅野ゼミ ストーリー班

◇ 各ゼミ趣意文（要約）

ゼミ名	チーム名
菅野ゼミ	衝動買いチーム
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちはついしてしまう衝動買いに着目しました。買うつもりがなかったものを一時の感情で衝動的に買ってしまふ。時には大金もつぎ込みます。そして、大半は後悔することが多いでしょう。私たちは、そもそも、衝動買いとは何なのか、なぜ衝動買いをしてしまふのか。なぜ後悔するのか。衝動買いで後悔しないための方法。についての研究を発表します。</p>	

ゼミ名	チーム名
青木ゼミ	マーケティング班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは駒澤大学付近にある飲食店「グランミール」の経営に注目しました。駒澤大学付近には多くの飲食店がある中、グランミールは、青木ゼミと協力関係を築いています。なので私たち青木ゼミは、グランミールならではの魅力を経営的視点から分析し、さらなる認知度向上を目指し活動しました。その活動プロセスや調査結果を交え、発表していきます。</p>	

ゼミ名	チーム名
福島ゼミ	もったいない班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは、「もったいない」について注目しました。日本の食糧自給率は、他の先進国に比べ低いですが、一方で日本は食品廃棄が多いと言われています。フードバンクという、まだ食べられるのに、様々な理由で廃棄されてしまう食品を、食べ物に困っている施設や人に届ける活動が行われています。日本の制度や文化、海外の事例、フードバンクからみた現在の日本の食問題を示し、私たちがなりの解決策を紹介します。</p>	

ゼミ名	チーム名
中野ゼミ	A 班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちは待ち時間について着目しました。「待つ」という状態の時、その時間が長ければ長いほどストレスを感じることがあります。そうした時間をどうしたらストレスに感じないか。そして、そのストレスを解消できるマーケティングを行うことで、顧客の来店意欲に繋がるのではないか。という疑問を検証しています。</p>	

ゼミ名	チーム名
菅野ゼミ	ストーリー班
<p>〈研究テーマについての趣意文〉</p> <p>私たちはブランドのストーリー性による消費者の購買意欲の変化に注目しました。</p> <p>従来のブランド観は情報ベースであったのに対し新たなブランド観は意味ベースのものになりつつあります。そこでブランドが構築するストーリーに対し消費者の購買意欲はどのように変化するかについて、事例を紹介しながら考えて行きたいと思います。</p>	

主催：経済学部ゼミナール連合会
後援：駒澤大学、経済学部同窓会
お問い合わせ先

【運営代表】

長谷川拓登（経済学部 現代応用経済学科 3年、EG5090）

TEL:090-8093-7650

E-mail : 1eg5090h@komazawa-u.ac.jp

議長ゼミ指導教員 明石英人

研究室 : 03-3418-9360

E-mail : sd0206@komazawa-u.ac.jp